

□なぜ「敗戦」が「終戦」なのか ■
**敗戦後五二年が過ぎて
何かと思うこと**

京都・渭原 武司

一九四五年八月一四日、日本は「ボツダム宣言」を受入れて、連合国に無条件降伏した。かくして、八月十五日正午、天皇のラジオ放送によつて、全国民は日本の敗戦を知つた。これは録音放送（玉音放送と言つた）だつたが、天皇が国民に向かつて放送するというのは前例のないことであつた。この日天皇のラジオ放送があると予告され、いよいよ本土決戦が切迫し、士気を鼓舞するためのものと予想していだ。当時のラジオは性能が悪く、雑音もひどかったから、天皇が詔書を読み上げるだけの放送は、こゝが聞き取りづらく、修飾も多くて、何を言つているのか的確につかめなかつた。国民が全員玉砕するのかと早合点した者もいたといふ。しかし、敗戦の事実はしだいに国民に伝えられていつた。

□そのとき、私は新兵だつた ■

五二年前のその時、私は浜松西北方に、本土決戦のため編成し配備された各種部隊の中の高射機関砲小隊の新兵（その年に入隊した二等兵）だつた。ところが、この小隊に高射機関砲は一つもなく、毎日、山林を手作業で開墾し畑をつくつていだ。近くで見かけた歩兵たちは、歩兵銃（歩兵の携帯用小銃）も銃剣（小銃のさきにつける短剣）もなく、何か腰につけている者に出会つたら、それは竹でつくつた水筒と鞘（さや）なしの竹刀だつたので唖然とした。

こんな部隊はどうしても軍の本土上陸を迎へ撃つことができるのか、と私は思つていたが、そんなことは誰も言わずに、人を病に苦しめながら無駄死させられたと言つてゐる。日本本土でさえ、弾薬の補給もなく、飢えがつて死んだのではないことを示した。シオニスト・イスラエルの植民地主義・拡張主義をそなはず、アラブ人民の明確な意思を示した。シオニストがその金と軍事力をもつてしょと、人民の意思を止めることはできない。今回の判決は、ハリーリー首相が如何にアラブ民族解放の大義に背くのかを示すものである。

この不当な判決によつて、遠い異国の地で斃（たお）れた百数十万の戦没者の大部分は、戦つて死んだのではなく、何か腰につけていた。彼らの無謀と無責任は、レバノン政府当局の意向が働いていたことは誰の目にも明らかであつた。我々は、このような不当な判決を断じて受け入れることは出来ない。我々は直ちに上告を行つた。この不当な判決と闘う。

〔1〕

ペイント地裁は、我々五人全員に対し、三年の禁固刑といふ不當な判決を下した。この判決の唯一の救いは、オマイヤ・アブドさんが当然のことながら、無罪となつたことである。

この不当な判決によつて、遠い異国の地で斃（たお）れた百数十万の戦没者の大部分は、戦つて死んだのではなく、何か腰につけていた。彼らの無謀と無責任は、レバノン政府当局の意向が働いていたことは誰の目にも明らかであつた。我々は、このような不当な判決を断じて受け入れることは出来ない。我々は直ちに上告を行つた。この不当な判決と闘う。

〔2〕

判決の前日に、アメリカ政府は、米国人のレバノンへの旅行禁止の解除をレバノン政府に通告した。オルブライ特務長官によれば、ハリーリー首相の「反テロ」へのコミットメントを認めた結果であるとのこと。我々の判断も、米帝への「反テロ」姿勢を示すために使われた。旅券・スタンプの偽造ということでの最高刑を下すことで、米国の方で、日本政府の引

□追悼式にごまかされるな ■

定された場所へ集合するよう命令してきた。

敗戦後に出版された日本陸軍部隊編成に関する資料などによると、当時、軍首脳が本土決戦を夢見て、太平洋沿岸各地に兵力を配備していくのが、約二百万が根こそぎ大動員されたが、その五〇%が、私の小隊や近くの歩兵と同じような、全く未装備の兵力にならぬ者で寄せ集めだつた。

彼らの無謀と無責任によつて、遠い異国の地で斃（たお）れた百数十万の戦没者の大部分は、戦つて死んだのではなく、何か腰につけていた。そこで首相が「式辞」、天皇が「お言葉」なるものを述べているが、内容はいつもほぼ同じようなものになつていて、「戦没者の心情に思ひをはせ」とか「遺族の深い悲しみを思うとき」などと言つてゐる。そこで東京で開かれていた、政府主催の「全国戦没者追悼式」が、天皇・皇后をはじめ首相・両院議長、最高裁長官等が参列して東京で開かれていた。

〔3〕

七月三〇日のエルサレムでの二つの自爆作戦は、パレスチナ人民のみならず、アラブ人民の明確な意思を示した。シオニストがその金と軍事力をもつてしょと、人民の意思を止めることはできない。今回の判決は、ハリーリー首相が如何にアラブ民族解放の大義に背くのかを示すものである。

〔4〕

我々への判決は、帝国主義の「新世界秩序」へレバノンが加わるための手段を、米帝とイスラエルとの交渉へ引きずり出された。ハリーリ首相は、一方でシリアの顔を伺ひきた。ハリーリ首相は、二つ、米国との経済関係を強めるために、民族主義的経済の力を弱めようとしてきた。

我々の判決には、こうした政治権力の意向が働くことは明確であった。不当な政治権力の介

もに、日本が連合国に無条件降伏した八月一四日ではなく、天皇が詔書を発布した八月一五日を「終戦記念日」（その後、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」と制定した）とし、「占領軍」を「進駐軍」と言い、敗戦・占領という現実から目をそらし、今日に至つては今なお過去の日本の「植民地支配」や「侵略」による「聖断」が下されたとして、「敗戦」を「終戦」とするとと私は思つてゐる。それ

程において、いつか憲法を改悪して戦前の「皇國史觀」による、旧日本的なものが、過去に対する反省や責任よりも、何よりも公然と続けられている過程において、いつか憲法を改悪して戦前の「皇國史觀」による、旧日本的なものを取り戻そうとする怪物の影が見えるからだ。

族である私は腹立たしく思つてゐる。私の兄弟五人のうち、四人が次々兵隊にとられ、長兄は中国、次兄は日本で開墾し畑をつくつていだ。近くで見かけた歩兵たちは、歩兵銃（歩兵の携帯用小銃）も銃剣（小銃のさきにつける短剣）もなく、何か腰につけていた。彼らの無謀と無責任は、レバノン政府当局の意向が働いていたことは誰の目にも明らかであつた。我々は、このような不当な判決を断じて受け入れることは出来ない。我々は直ちに上告を行つた。この不当な判決と闘う。

〔1〕

ペイント地裁は、我々五人全員に対し、三年の禁固刑といふ不當な判決を下した。この判決の唯一の救いは、オマイヤ・アブドさんが当然のことながら、無罪となつたことである。

この不当な判決によつて、遠い異国の地で斃（たお）れた百数十万の戦没者の大部分は、戦つて死んだのではなく、何か腰につけていた。そこで首相が「式辞」、天皇が「お言葉」なるものを述べているが、内容はいつもほぼ同じようなものになつていて、「戦没者の心情に思ひをはせ」とか「遺族の深い悲しみを思うとき」などと言つてゐる。そこで東京で開かれていた、政府主催の「全国戦

没者追悼式」が、天皇・皇后をはじめ首相・両院議長、最高裁長官等が参列して東京で開かれていた。

〔3〕

七月三〇日のエルサレムでの二つの自爆作戦は、パレスチナ人民のみならず、アラブ人民の明確な意思を示した。シオニストがその金と軍事力をもつてしょと、人民の意思を止めることはできない。今回の判決は、ハリーリー首相が如何にアラブ民族解放の大義に背くのかを示すものである。

〔4〕

我々への判決は、帝国主義の「新世界秩序」へレバノンが加わるための手段を、米帝とイスラエルとの交渉へ引きずり出された。ハリーリ首相は、一方でシリアの顔を伺ひきた。ハリーリ首相は、二つ、米国との経済関係を強めるために、民族主義的経済の力を弱めようとしてきた。

我々の判決には、こうした政治権力の意向が働くことは明確であった。不当な政治権力の介

り渡し要求を否定するこ

10月号・特集・★860円(年間1000円)
沖縄から安保を問い合わせ直す
 フォーラム906 東京都千代田区三崎町3-1-18 近江ビル4階
 Tel&Fax 03-3234-3011 発行 ● 社会評論社 ● 03-3214-3661
 「日の丸」掲揚や「君が代」斉唱を義務づけようとしていることは、やがて「天皇に対する忠義」と私は思つてゐる。それ

やがて、対米従属の枠組みの中での日本帝国主義の復活がひそんでゐる。その

内で聞いていた私も、初めはよくのみこめなかつたが、やがて「無条件降伏」したことを、「ボツダム宣言受諾」と言い換

えてゐるのだと分かつて。これを天皇の畏（かしこ）き御言葉による「聖断」が下されたとして、「敗戦」を「終戦」とするとと私は思つてゐる。それ

程において、いつか憲法を改悪して戦前の「皇國史觀」による、旧日本的なものを取り戻そうとする怪物の影が見えるからだ。

このように言い換えるところには、敗戦後の日本が過去に対する反省や責任よりも、何よりも

「靖国」への開墳参拝が發言が繰り返されたり、

「終戦記念日」（その今なお過去の日本の「植民地支配」や「侵略」による「聖断」が下されたとして、「敗戦」を「終戦」とするとと私は思つてゐる。それ

程において、いつか憲法を改悪して戦前の「皇國史觀」による、旧日本的なものを取り戻そうとする怪物の影が見えるからだ。

このように言い換えるところには、敗戦後の日本が過去に対する反省や責任よりも、何よりも

「靖国」への開墳参拝が發言が繰り返されたり、

「終戦記念日」（その今なお過去の日本の「植民地支配」や「侵略」